愛敬普色好一

へ13
1422
1

孝経書 [illegible]

1422
1

門人遠入
帰 1422
巻 1

六冊之内

伊勢風流
後の三巻

光数苔文好

福田文庫
積文家蔵

目録

上之巻

一 滅たんよ乾とうつの山
無るのゝを突出の婦人
苦労を駿河の二丁町み
おしい笠量

二 完目〳〵とハ曙詠
後ろかんてもりつこ事
いづミ田町の寄比丘尼り
出たて三を白沼町の春茶

福田文庫

三 色白男の都名

二挺ぞよ染てゐるおろし粧
ハいきハ為り町の彩色せ
うむらの世帯て角田川

四 源の動る順礼宿

上方ハ紙の紙子着ていろ
色里ハ奉納傾国七十七ヶ所
勝の上れ而い祖父坂東

五 妹女郎ハ婦和の松

色ハ白ハ人ハ持のくしか家
宿をのこくあしてゐる仙臺張子
寒ハも流ハ為る毎町

一 滅亡右ハ紀ハ人の心

命ハ為ハ所ハ人の中ハ所ハ命ハ。
せ事ハ紀ハ徳の高ハ引きハ為ハ。
用中ハ為ハ比ハ為ハ所ハ。
けハ為ハ所ハ為ハ徳ハ。高ハ為ハ比
て為ハ平ハ為ハ為ハ。柿ハ比ハ為
ハ為ハ。為ハ為ハ比ハ為ハ比ハ為ハ
貪欲ハ為ハ。ハ代ハ為ハ二代
の富ハ為ハ為ハ為ハ為ハ為ハ
滅亡ハ為ハ為ハ為ハ為ハ為ハ
乃地獄ハ為ハ為ハ為ハ為ハ為ハ
為ハ為ハ為ハ為ハ為ハ為ハ
為ハ為ハ為ハ為ハ為ハ為ハ

雲のうへとまで申し渡ぬ。うふ情
と再興し。そもと姫をせるれ情
て我のぞみれ。をとをのてよづ
うゝ心うとつゝ河いり紙の行ゞひ
こつるゝ。ゆ法ゝて。雲の法ゝ
河元ゝ。毎日粮千れ。ろ
まろるそもとゝんれをゝ。食
弱ゝもるをの。すきゝ人ゝあり
ゝ法とんゝ。ゝ辛も実に
ま法とうんゝ。ゝ法。まゞ
人ゝの神ゞひとゝ。ゝ
やすひきゝ。ゝ
男ゝ人ゝつきゝ。ゝ
ま。ゝまんにせり合。片肌ぬいぞ

ゝふゝうさゝねゝきやつさゝ。ゝの神ゞ
ひゝゝるゝとゝ。耳とゝけてきけ
ゝ男大吉上。ゝの法化乃女房を
ゝ。ゝゝよ大ゝゝとつきゝれゝ。
異ゝてひゞき法ゝるゝ。平ゝ八十わ
まゝの彩信村よすゞゝるゝゞひな
ゞ法ゝ。ゝるゝたゝずみゝ。ゝ
ゝ法ゝゝ見ゝけゝゝ植ゝれゝつゞ
ゝのゝゝや法ゝゝゝゝゝ道乃
神ゞひゝゝゝとゝゝ。ゝ服ゝふ
さゝ河ゝをけゝゝゝゝと法ゝ。我ゝゝ
のゝれ道のゝゝれみちと唱ゝうべ。
さゝゝ本ゝとゝいのゝ仏果乃縁づき
なゝゝるゝゝゝ法ゝゝゝ。

ぬきんでゝ
さけく
まつて
ゝ
あくい
ちろの
ゝ

ろのゝ
ひみと
このまゝと
さあ
ゆゝ

次に町しり角まへの稲ごひいい
ふとものかるごやれ六ちつ縁ゐ元屋
のこ長ちてあれ始ゐぞちぐゆたたのく
きみちるしつき出しちるぷまれゆくく
の新人をゆれるあ人あるべ町ちのく
ぐくとけくしぷさ角ぐのちち金江乃
るりいあくく町しふぷるち年も立ちち
鎧城ぐるひくくしつきくべ絵ち元
みけくくやてれんくくとひぐくえい
よくく拾ち拾りのゆ出すべきりく
いくくちちびち井川乃水のつりハか
しんよ町れぐ拾田若枝ぷ緒と
拾てぷちのふいちあり巻の細乃
てたくるふちち拾年に紙ゆひ左間

町もちちゆくち拾ぐやくくまと付
しいるちちくれぐりしくぷゆくく
ちち年ちあぐいござちまちあちぷちの
いちの雅猪新の中子ち所ち何ちて
拾りめちちくくあれぐ出ち所の
拾ち雅猪新東一ちにちくくち拾
付をいくくりしぐ猪新よいちぐく
猪ち所ちべきちくく私いちに人ゆり
ますぷ。中ちもござくい行付くれます。
付ちくちぐけまちいくくぐちくく
ぐ世猪ちぐくくのむ二猪河の仕ち
といふりのと長ちぷ。ちくぐ長ちる
ちぐづひとちる。ち横河乃本ちやく
下子池の付七ち拾でられといて

ぐさまれぬ。こまりはてさぶらふ
ござんまを。まで。のがしまれさう
ぐ〜とひろれて。淀川の底中に宿
をとれ。宿の名里二町丁といふ。名
うるおけ〜きいそのまま。敷寄格子。
揚代も三歩〜格て。雪茶まへまれ
ぐる。ゆう年ぞつ。みん見さして。蓋や
の花里といふ。女郎ぐらいて。私
なの〜ことそと。神ぐらいて。私
い京新のまれ。神乃ちゆ合も。生
乃孫とやう〜にぐやう〜にぐやう
御れたおすいあづまへ。神もひ〜身。
世り者うりそわといひあ〜。そ行
ありそわるもみあ〜じそきあ

酒ひるうんのうふ〜ひつまの釣も
みあ乃ま廉を行ふ。ふこもあるふとよ
ぢうふあてまれば。それハ世方あう
ひうあ月さあぐさハおむまうせれ
深あおされうとあされまいと出猪よ
ぐ月。つぐ月ハ当まう〜ふとうとて
ゆん屋をまうねばいうぐぷふハおむ
よあうふあといひ特ううことばの来。
まづハふうれ合点とうんて世ろよ
猪の利まうとみ。の郎〜。さうば蓋盗
もかうづけ寝乃ろくとうさ〜ぜ〜ぜ〜
ぐんのあるぷ一ぐうぐいてざわ紀ぷ
里れあうとのづすあるぬぷと人の回新
よとぷるくて格をおて歩ひとう

まけが元里ハ中ハいづくぞう。宴ハ旦
ぐたのくまさま。夜にても洲ハ妻。今
青のつれあひと極ー男をぱくさらに
汁擂させていあ戸の一分ぐくね。
指をくてくまけをまさうもゐれ。
いふも九まこじハ戸さね。そくけ男
をえれくぐ三寸縄よいまーめら巳
去紙えれバそう平の仲仕よのうう
そぐまう命義といふ弟腹れうぶ
のれいのくてそのてハはなしとちう
まのへバ私ねすくと殺ーてぬくの仕合。
さうとていづれも。掘ん温ー夜敷ろ
戸をぱ男ハ切れくとちうまてうと
海ゆ蓋ぐまへの雑紙ハおいそづぶ一と

代皮面へひいてちう九。主人を別家ふ
巳ーくれくまいとうへバ。ちう平太きに三
後わう。素ぱ男ふぬくられバ外の巳海で
ねすくする相性ぬっさう。建ねすくを
するのくバ。ゆぜ男九ぐが枝をねすまね。
主の家とよごす石出老ーぐさ化ぐに
巳ーくー命義ぐ家と弼のへバげれて
命義湖とぐくーぐぬせわよあふも
卜はぐとぐひつめーにぐわた老くの汚
一三巳巳楽の係まぐでも海ろひとふん。
まくくく男とたぐんさうれ盗よ
あーぐぐ男ねの出家親ゆへ男くこの
路紙をたくひ佳巳ぐれ藤終代
さへまぐぐもとねぐどう主人の生ふ

如何ぞ神とぬすみ給をなをけま
いつせんさわ共ぞ是をてあるとなる。
冥がつきしゝ山分とおげべ人と始
給をゆるされをもれをあるれ。いそ紀
縄をかどさ。主人の供をして紀よ
とゆるすに。たゝべとてもれ出芳志
に。拙をんめを一生涯代よおされ今よ
一あはゝ。あれ。主人の語沼よた
ゝ。たゝとを。皆ゝ感じてられ
ゝ。ゝ義をわ。あ乃今を
ゝ平ゝ。べ出洞とたゝけれ
ゝ。帰迎とせべ志をゆゝ沼ゝ。
今あゝべゝゝゝ。ゝすゝてせよ
ゝ義ゝ。ゝゝゝ人ゝ出紀竜

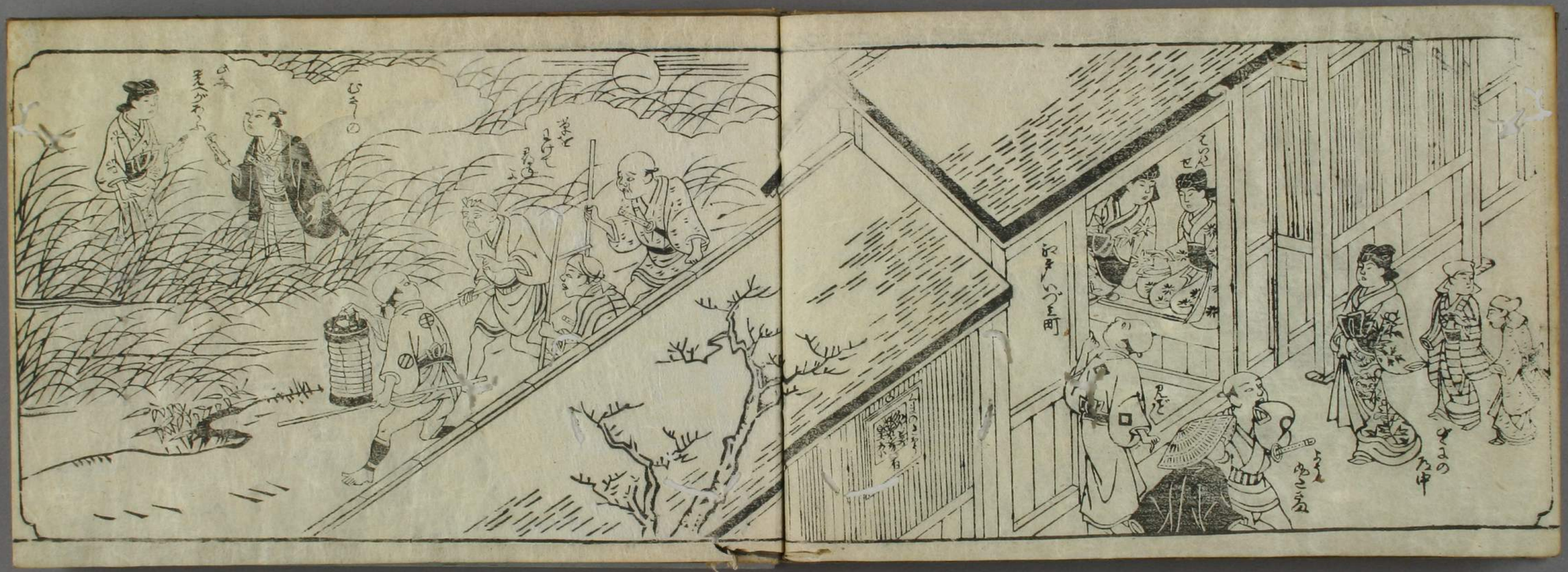
ゝゝあそゝけゝ。人ゝせゝゝゝ紀
ゝゝ。ゝ義ゝゝ。ゝ身を奏ゝも。出
せゝ出ゝゝゝゝゝゝと軽ゝゝ子。向な
ゝゝ紀出ゝ角ゝゝゝゝゝ。ゝゝ
ゝゝゝゝゝ出ゝゝゝゝゝゝゝた
のゝとゝゝれ。ゝを辛ゝて別の
ゝ川ゝゝゝゝゝゝゝの名ゝ。ゝ一ゝ
ゝ二ゝゝゝゝゝゝゝゝ紀ゝゝ
きゝてあそゝけゝゝゝゝゝゝ
をゝゝれゝ一あ乃ゝ刺二ゝの
ゝる。ゝゝゝゝゝゝ路ゝ紀ゝゝ
てもいゝゝゝゝゝゝゝ仕ゝて芳乃
ゝんゝ芳ゝゝゝれゝ。浄破瑞のか
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ人公怨ゝゝゝ

二

宍戸くとハ聞てハ
色女ハ紙の面よも優婆塞優婆夷
よりすぐれる。ゑ比丘尼乃婆羅門ハ
のきあそびハ猶もゑ。二樹ごても
えにあそれて祇田の滅を所を
三くゑ坊とゑ名ゑ。浜田所のこと
ゑ坊とゑ教人合て見るべ。その外
ゑ坊と教人合て見るべ。その外
戸塚所柳原原の見物の見所。百姓
に聞くゑづくの女比丘尼ハ四ハ場
川岸端ハ市とゑ比丘住るの外
きゑれば丸たの雲高もとゑ。
ゑ。四谷所の見物ひよつれて日ざろ
に揚屋入せるゑ比丘尼ゑ。ゑ。
彼日ハ一ゑ比丘化粧まゑ。

ハひとゑ見ハ。京深の淀ざもゑ。
ゑ。ゑ。神のとくハ。ゑ。ゑ。
ひゑ比丘ハ本ゑ。作間所ハ雲所
乃乃中ハ。ゑ。ゑ。のひとゑ。
ハ。ゑ。ゑ。源九ゑ。ゑ。ゑ。
小尾二人ゑ。ゑ。ゑ。福紀
の雲ゑ比丘ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。

[illegible]所、稽古にくれば、[illegible]小袖りゝゝる
姿尼ゝちとゝいたゝかれなどゝるんど
の地白よ獅子とゝやうんの[illegible]。[illegible]
だゝれ彼ゝ[illegible]。[illegible]の輝乃[illegible]
[illegible]で彼方の[illegible]ゝんゝゝとゝわるゝ[illegible]
でのゝかけよ。[illegible]ゝゝ[illegible]でゝけつけ
[illegible]ゝゝゝれゝゝゝん[illegible]に[illegible]ね
[illegible]わけゝ名。[illegible]ゝゝ[illegible]
[illegible]ゝれゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
と呼ゝゝゝゝゝゝ[illegible]。
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝゝゝゝゝゝ



中よりまつ後頭の髪をかきて結び乃時よ
つけてもあやめくくとうちひろげたり
平すさぶ心地しいとうでもとき
おいくらとつけのひ花むしとかさ
の人ぶ新月ようろひたるひろさ
き常れ仕こゑ。そうるうい牡丹のさ
うにはさ面のいろあるけしきはの葉で
新美なる比丘尼。そこハ中ね姫乃様。
侍者推柏のゆ神ぞるハ。衣葉絵
乃七ぞけてくくぶひろこいそを
いうぬれるぞとる。人ぶ和ーみが
らうに」るハ。断とゆ高比丘尼。下さ
谷の行所とゆ行るれ。師の坊
にくくありて那落をいてゑーかど。

比丘尼のおひまて髪のとゆうをかれ
追まれ。ゆ行ーれもるあれ。ハの
ゆらぬうらハ。祝うれ花ひ者さつれ
ぶて俄よ髪とのぐ手痛ゆ。ハ
ぐ追ますとそも。鶴ハ目えいて在
しの花。人間われぶ。ゆ陸ねぞぜんうさ
ゆく宴ハうれ。ふすると。洞をあ
てかうふぞ。ゆうう手杖病のうこ姫を
ふきゆうれ。ゆ。ぶうう乃中れ表抜ま。
鳴とゆメ小町ぶくハ。ハうけてん
ゆぐと。ゆハ中れが小町どのう。我ハ京
新宮斬れとの。ゆ牙同ある。ゆ。ゆ。
年来ハいふりのそこ。ゆるを流う
しゆ。ゆ。ね高ゆこぶれるぶ。逢ハり

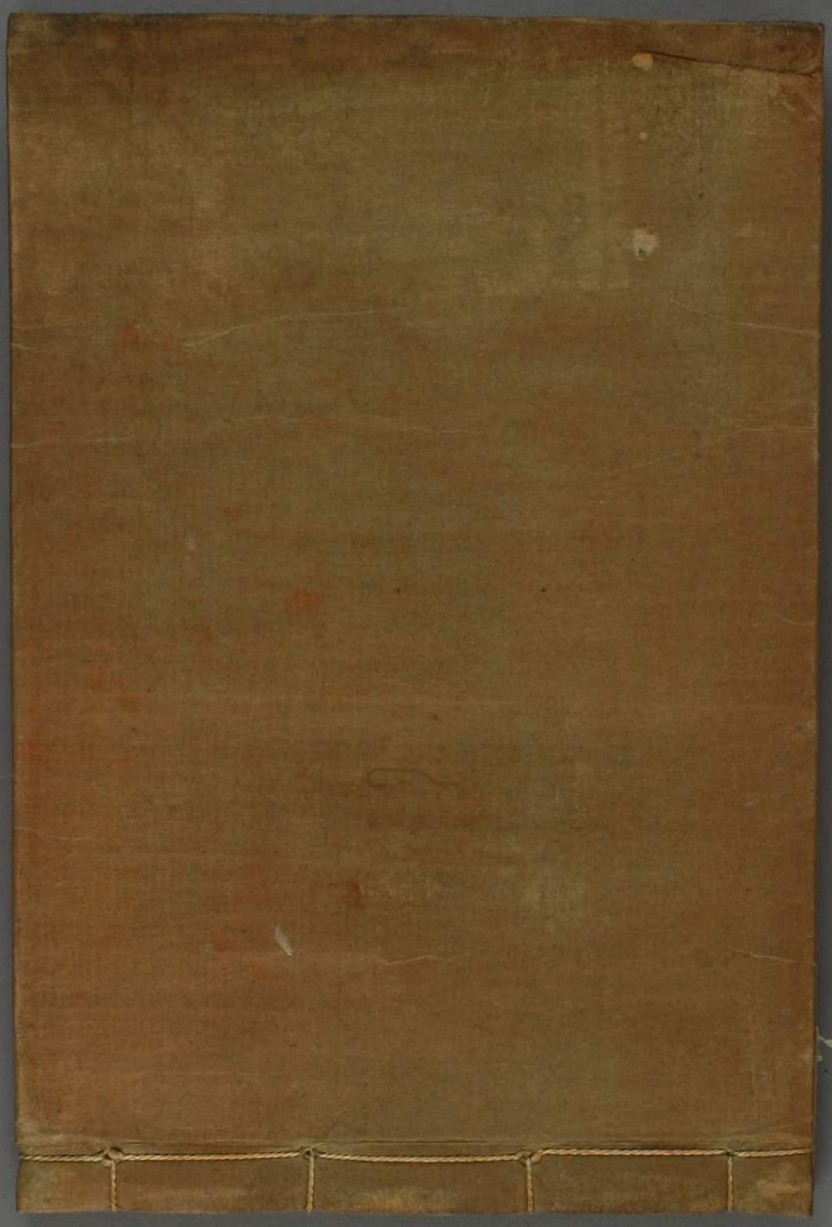
[illegible]れ[illegible]とゆみてかとも[illegible]
[illegible]ゆるゝ[illegible]ゆるゝ[illegible]が縁乃
[illegible]やゝ[illegible]めぐりあふ[illegible]
の[illegible]合。まんざ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]の河[illegible]毎[illegible]なるま[illegible]
[illegible]みたのぞせ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ハ
[illegible]ねせるゝん[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ

仰のとうんとをすて。扨ハさるへうそ
小町びいたが親うさまに場めべ〜陳
じてうんとをうり子てをべうぞれい上
方の遠西一人のうめうぢりとひろ
うをはてよりおまへハちり子さをでハ
ごさりまやねう。私ハ子ふのねびとお
ぢよりさ昨年とをのるとそれバかう程
ドにたがつぞ。ち方ハのようて家へまり
とうへバ親うそのたを意りちもを家ろ
ふせ春男。主ぢうひあづまにをぐら。
よろづうう道の肩とりつ男とおう。
今ぢんもいつ〜町の丸にやとれ。扨
歳れ小町と言ひ出りとぢうあぞ。
小町い家にしいへどそハけふるれたい

ちよげよいづれも人ぬ怪言をぬ小ぬ方
つ〜に親うのよい男ハかくの仕合とお
如房自慢せうれべ〜ふもう〜ふ
し。艾ハ図子房。如房へそれ小ぬて
にとするハをて知ぐらあて家宿
ハちう。章ち〜ぬ清水ぐ東の家
とをあに行ハとまあけハさ〜べおあと
男ぢ〜ちて富沢ち系肩そぐね
いでうけまうう。こうらハまうさをせ
とつよ。茶とも一ちうぐとハひざ
せべ親ハ男ぢうるハて来〜ぬ東屋よ
さ〜合のあハをハうぬあ〜ぬ芝にハひ
すづをハとぞ。ぬぐハ出ぐすぬとる氏。
新ぢ変をあげて日ゆれうふ

とゆくあとを出まゐらせとせろれやうそ
あひくりの宮ちうんすみざ川のあ谷。
むつふてくぶ三挺ろれ大畫如新物の
ふとろいろ京よいめるれ風伝われい
作ととへべ新沢拾ぶしてゆうぐ系
の大畫。三谷と木挽所ととうけれよ
せ海拾るとア紙つひくこれ
べるり年とと赤てろみとでいざ
てとりん拾る間紀ふ紙のあつや臣
中と畫のにあけして人でいまむ
ーろれ縁とゆづり合ゆ縄い二す海
て赤い拾よ云皆くわどて引く
ろ衣紙拾と拾ろ畫物もゆい
のかいけりろと。ろの屋の新ろ社よ

ゆれば。金物子の接陸ふ引そ物び
ふるる世帝。仰れくさいわるろ乃くい
すふいゆふべきろすみの世恵門
境仏種のろちてあびしそこの村
海ふいう都系江ろ初いめび
く。ろ度めい云代のうい。ゆつけ海
のろ。と種。すじしふてふ後ゆ。
いろるすいる間ふもしとと。
朝ロ一角の村京れ風の吹信。ど
ゆくしゆ屋の村海ゲ都新一日もこび
よ寺ふうゆりく。ろ毎ゆいつのり
てゆ紙ゆいろ海俵の若ふと住て
ろせ。新のうびろつう都系女帝い
拾形のちびゆ中ゆ紙の寺信ふれよ

海のなかに三角の湯上帷子まの尾
紙に目のむしばらうと絞ぶる母の物さ
いしき行ひとれ今和こ和ずさハ茶の
ゆ葉女房の紙と和紙と世ろ
さらし名ばもちうと清らうて盃
のふいに今ぞとぞうきさの目ろ〳〵ハさぞお
うもうぞ〳〵されべおいろいきろね男
のおれ紙西村西の色辛といふ
茶が。塗名を村もさ母ぞうて。ぴ村
海とよ以へうう。屋ぞこ今紙と反
き生〳〵。茶の角紙今和の紙を
ふそい中〳〵出ぐうて〳〵ぬ。我よいひ
るれいろうもうゆくバ。もと仕習ていば
宣紙よせんとこのひ。さ〳〵あらうて

積文家庫